

2023(令和5)年度事業報告

旭福祉センター・第二旭福祉センター

■ 中期計画 令和5年度 単年度目標に関する報告

※評価基準

評価	S	A	B	C	D
達成度	9割以上	7割程度	5割程度	3割程度	1割程度

I. 利用者ニーズ起点による既存事業の安定経営

【グループホーム】

「世話人・GH担当職員の支援技術向上」評価【 A 】

世話人との情報交換会および、グループホーム(以下、GH)に所属する利用者との意見交換会について、今年度はそれぞれ年2回を年3回に増やして実施した。特に、新規で入職した世話人へは支援の差が生じないように、健康管理体制の共有や各種伝達事項の確認を重点的に行った。その他各GHからの要望の検討、改善の実施など、利用者支援の充実・強化に繋げることができた。

【入 所】

「入所棟新設に伴う土地買収と建物新設」評価【 S 】

土地所有者と合意に至り購入完了。建設に関わる土地開発協議も順調に推移し、今年度に土地造成と建築工事を開始する計画である。

【就労継続支援B型】

「新規の作業・商品・利用者の開拓」評価【 S 】

① 新規事業の開拓・新商品の開発

2023年4月より市内集合住宅の清掃業務を行い、今年度は2件受注した。また、県から伐採・草払い等の作業委託を5件受注した。新商品の開発については、定期的に検討会議を行った。

② 販路拡大

各作業班で現状分析等の検討会議を実施し、営業活動を行い、販路拡大に努めた。

③ 目標工賃の達成（各作業班）

今年度 旭福祉センターの目標工賃 月額30,000円は達成することはできたが、第二旭福祉センターの目標工賃 月額28,000円に対して27,910円と目標をわずかに達成することが出来なかった。

④ 作業の質の向上（作業委員会）

今年度も育成シート対象となる職員に対して100%実施ができた。

⑤ 機械化による高効率化（幹部職員）

2024年7月に勤怠管理を導入する。効率化に向けて各作業班で検討を行い、作業環境の整備や治具の開発などを積極的に行った。

⑥ 新規利用者獲得

SNSを活用した情報発信は計画的に実施できなかったが、特別支援に訪問し、施設の取組や互いの現状について情報共有を図った。

【生活介護】

「利用者の重度・高齢化に合わせた支援やプログラムの提供」評価【 A 】

① 先進的な他施設の訪問計画及び、情報収集

今年度も1件他施設見学の計画を実施、今後の課題「若年、高齢、重度の利用者の活動の分け方」を中心に見学、質問等を行った。今回得た情報を基に課題について検討し、改善を進めていく。

② 介護プログラムの確立：音楽療法カリキュラムの知識・技術伝承

様々な情報を基に検討をした結果、職員が音楽療法インストラクターの資格取得を目指し、実際に資格を取得することができた。また、他のスタッフにもその技術を共有し、常時、音楽活動を行える体制を整備できた。

③ 新規創作作品の開発・販売

これまでの創作活動の中からトートバッグ販売を決定する。2023年度よりバザーや近隣の物産館で販売を開始した。

【就労移行】

「認知度向上・就労移行カリキュラムの充実・就労機会の確保」評価【 C 】

① 就労移行事業のアピール強化による新規利用者の獲得

パンフレットや掲示用ポスターを新規作成し情報発信を行った。

関係機関(ハローワーク、心療内科クリニック)や県内の高等支援学校に対して訪問活動を行い、新規利用者獲得に向けてアピールをしたが利用者獲得には至らなかった。アプローチ方法の見直しを行い、継続して認知度向上及び利用者獲得に努めたい。

② 実習先の確保と就労先への定期的な訪問

利用者の就労先には定期的に連絡や訪問を行い、良好な関係性作りに努めた。計画を立案して実行し、情報の共有と良好な関係の構築に務める。

II. 人が育つ組織づくり

「組織風土診断・職員の対話促進」評価【 B 】

① 組織風土診断や定着者・退職者の分析

今年度は組織風土診断が未実施だった。職員の満足要因・不満足因子を分析した上で、効果的な具体策を検討できるようにする。

② 管理職と職員の対話促進

計画していた面談は概ね実施できた。また、面談に主任が同席し、面談者に対して課題を抽出する為の視点や考え方などOJTを積極的に行った。

また、サブチーフクラスに対して施設内研修の場で「対話力向上研修」を実施し、面談者のスキルアップを図った。

III. 計画的な新規事業の創造

「ネット販売プロジェクトの立ち上げ」評価【 S 】

若干の遅れにより陶芸品のみではあるが、2024年5月よりECサイト立ち上げが完了し運用開始となった。今後新たな商品を随時アップしていく計画である。

各委員会報告

(重点目標に対する事業報告)

委員会名	2023年度重点目標	事業報告
支援	・個別支援計画の新システムの構築 ・職員への研修の開催	・新システムの導入は検証の結果、見送ることとした。管理体制そのものを検討し直し、現在進めている。 ・委員会メンバーの技術向上の為の研修を実施。
生活	・役割分担の徹底と協力体制 ・生活環境充実のための意識向上	・買物実習、冷暖房管理、寮生の居室変更など、各委員が協力して実施することができた。 ・居室及びトイレの清掃と確認、ベンチの修繕など利用者の生活環境改善に繋げることができた。
作業	・作業環境整備 ・各作業班製販計画の達成	・各作業場から出た要望に対し柔軟に対応し、環境整備に努めた。 ・製販計画について、作業班全体で計画比103%と計画を達成することが出来た。また、製販会議を通して各作業班の情報共有に努めた。
地域	・各バザーフロー表に基づい	・鹿児島国体への参加をはじめ、ナイスハート、ノウフ

	た計画の実行とフィードバック	クマルシェ等の11件のイベントに参加できた。特に問題もなく無事参加することができ、フローへのフィードバックも行った。
事務	<ul style="list-style-type: none"> ・業務効率化の推進 ・情報共有の徹底と円滑な連携(各部署、事務所内)の遂行 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼の実施で情報共有の意識は上がったが、全体的な資質向上までには至らなかった。 ・効率化もできる部分からは取り組んでいるが、今後も取り組んでいく必要がある。
炊事	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のニーズに合わせた食事作り ・感染症対策の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者や職員の要望に対し、その都度検討し実行することが出来た。感染症対策もアルコール消毒や座席の記録を継続出来ている。
職場改善①	<ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい職場環境の推進 ・職員研修の内容充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規職員への新人研修等の実施は予定通りできた。 ・職員研修は実践的な内容の研修を行うことができた。
職場改善②	<ul style="list-style-type: none"> ・職員育成体制の充実と職員必携の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動チェックシートを活用し、改善方針シート面談実施へと繋げることができた。 ・職員必携を熟読したレポートが提出された。
人権擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の確実な実施 ・情報共有の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいて活動を実施し、結果の共有まで行えた。今年度も身体拘束防止についての情報を盛り込んだ研修を行い、虐待防止への意識向上を図ることが出来た。
行事A	<ul style="list-style-type: none"> ・行事計画の早期立案と早期周知 ・計画フローの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染拡大によりキャンプは中止とした。新年会は職員周知が遅延した。 ・フローは未完成。来期作成予定である。
行事B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事の把握、早期立案と周知の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年も予定行事を実施することが出来なかった。今年、代替として全国障害者スポーツ大会見学、わくわくフェスタ、昼食会の外出を行った。
行事C	<ul style="list-style-type: none"> ・行事のフロー再確認 ・早期計画、早期周知の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・バーベキュー、忘年会等の計画を立てたが天候、新型コロナの影響で中止となった。ビアガーデンは計画的に進めることが出来た。
入所・GH旅行	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が楽しめる企画の立案 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回 GH 旅行を計画し実施する。久しぶりの旅行でもあり笑顔を見ることが出来た。準備の段階で遅れ気味であったので、次年度「入所旅行」では計画的に進めていきたい。
総務	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく働きやすい職場環境作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・金曜日のノー残業デイは声掛けにより意識の向上が見られ、定着してきた。リフレッシュ休暇取得・4日以上連続休暇の年2回取得については各作業班の協力によりほぼ100%に近い達成ができた。
保健	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の確実な実施 ・情報共有の徹底と情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅れはあったが年間計画通りに実施することができた。意識的に通院状況などの情報共有は行うことが

	力の向上	できたが、利用者・職員への情報発信は遅れが目立った。
--	------	----------------------------

作業班別報告

(重点目標に対する事業報告)

作業班名	2023年度 重点目標	事業報告
NODOKA	<ul style="list-style-type: none"> ・集客率アップ ・接客サービス向上 ・料理開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・売上達成。季節に応じたメニュー開発を定期的にお客様に提供出来た。コロナ渦も徐々に減少傾向の中、お客様の流れもあり予約等も少しずつ増えている。今後、集客率アップの一環として、店舗で出来るアクションを増やせる取り組みを取り組んでいく。
ベーカリー楓	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成(育成シート) ・利用者新商品の確立 ・ブランド強化の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・売上達成。イベント等に出来る限り出店できた。 育成に力を入れていく為に育成シートを活用する。楓のブランド商品を開発したが、まだ発信力が弱いことが課題に残る。キッチンカーも含め色んな宣伝をSNS等も積極的に活用して取り組んでいきたい。
竹工	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成 ・利用者の適材適所推進 ・職員のマルチスキル化 	<p>人材育成の成果としては、改善シートを用いた面談を定期的実施し、行動チェックシートの△が無くなった。利用者の適材適所は、各作業トータルで約30工程の習得を実現できた。職員のマルチスキル化は、額縁作業の全行程で推進できた。</p>
蔬菜	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成 ・栽培工程マニュアル化 ・地域との交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術を身に付けるには時間を要し、それぞれは習得するまでは数年かかる。マニュアル化についても基礎的な形は出来ていても追加更新できていないのが現状である。今後も続けていきたい。
メンテナンス	<ul style="list-style-type: none"> ・作業フロー作成 ・作業人員育成 ・研修体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・売上計画に対し未達。コロナの影響により作業中止や延期が主な要因として挙げられる。作業フローは、順次作成しているが一部未完成。作業人員は予定通り育成できた。来年度も引続き育成を行う。研修体制は改善をしながら取り組んでいく。
陶芸	<ul style="list-style-type: none"> ・絵付作業の人材育成 ・手造り商品の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵付人材育成の練習は計画通り進めることが出来た。手造商品は昨年に比べ充実度は増している。窯元やバザーで好評。売上は計画に対し114%を達成。
施設外就労	<ul style="list-style-type: none"> ・関係先との連携強化 ・地域との関係性構築 ・利用者支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係先との連携を円滑に行う事が出来た。 ・地域清掃を通して地域住民との良好な関係性作りに努め、チラシ等の広報活動を通してセンターの認知度向上に繋がる取り組みを行った。

味噌	<ul style="list-style-type: none"> ・在庫管理の徹底 ・味噌作りの人材育成 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・在庫数が安定したことで、タイヨーの店舗数を増やすことや様々なイベントに出品することが出来た。育成は進める事が出来なかったが、新調した機械によって作業の効率が上がった。
生活介護	<ul style="list-style-type: none"> ・新規創作作品の決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の描いたイラストを元にトートバッグを製作することに決定。完成品はバザーや物産館で販売することが出来た。

2023年度 各作業班 達成額

作業班	2023 計画	2023 年度 達成額	達成率
蔬菜	4,450,000	4,720,000	106.0%
楓（菓子班）	19,200,000	20,850,000	108.5%
NODOKA	7,500,000	7,850,000	104.6%
メンテナンス	24,900,000	23,190,000	93.1%
竹工	2,750,000	3,600,000	130.9%
陶芸	850,000	970,000	114.1%
施設外就労	1,100,000	2,370,000	215.4%
味噌	1,500,000	1,580,000	105.3%
介護	120,000	130,000	108.3%
合計	62,370,000	65,260,000	104.6%

* 達成額は(下4桁切り捨て)にて記載

各サービス別の月額平均工賃

		R4年度	R5年度
旭福祉センター	生活介護	5,777	7,173
	就労継続B	27,634	30,569
第二旭福祉センター	就労移行	23,117	28,041
	就労継続B	25,478	27,910
センター 全体 平均		19,701	22,550
一般就労者平均		87,405(6名)	105,432(6名)

※参考：B型全国平均工賃 17,031円（R4年度実績）

(その他)

職員研修の充実

令和5年度は、施設内において年間 6 回(新人・中堅・人権擁護・清掃メンテナンス・チューター研修など)の研修を実施、職員の障害に関する知識と支援技術の向上や、社会性・道徳・倫理的な要素を取り入れた研修等を行った。また、外部研修についてもコロナ禍であるが、オンライン研修等も含め計 27 回の様々な研修・講演会に参加、資質の向上に努めた。

実習受入実績 他データ

	福祉学習受入 (川上小)	保育士実習 受入	特別支援 現場実習	新規入所者 (新規通所者)	就職者を除く 利用者数	就職者数 (就労移行)
H28	—	4(3校)	8(3校)	2(4)	89	4
H29	92	11(3校)	8(3校)	3(2)	90	4
H30	98	4(2校)	14(4校)	1(3)	92	5
R1	94	4(1校)	11(5校)	1(3)	88	6
R2	90	1(1校)	12(4校)	1(4)	95	6
R3	90	1(1校)	21(5校)	2(6)	96	5
R4	93	5(1校)	13(5校)	1(2)	98	6
R5	90	4(1校)	11(3校)	0(3)	101	5

福祉教育

令和5年度は、下記の実習生・研修生等を受け入れ、福祉教育の充実に寄与した。

- ・ 保育士実習 4名(1校)
- ・ 特別支援学校現場実習 11名(3校)
- ・ 福祉学習 90名(対象:川上小4年生)